

## 2007年度秋季大会の報告

2007年度秋季大会は、北海道大学（札幌市北区北8条西5丁目）を会場として2007年10月14日（日）～16日（火）に行われた。参加者数（前納登録者と当日受付者の合計）は753名であった。

1日目午後には、北海道大学学術交流会館講堂において、新野 宏理事長による「初の業務的竜巻予報から60年一竜巻研究に見る大気科学と社会の関わり」と題した学術講演が行われた。理事長学術講演に続いて大会シンポジウム「雪氷圏から語る気象と気候」が行われた。シンポジウムは聴講無料で一般公開された。2日目午後には、北海道大学学術交流会館講堂において山本・正野論文賞が岩渕弘信氏に、堀内賞が阿部彩子氏と田近英一氏にそれぞれ授与された。授賞式に続いて山本・正野論文賞及び堀内賞の受賞記念講演が行われた。

講演は特定のテーマによる5件のスペシャルセッ

ションと一般口頭セッション及びポスターセッションで行われた。講演申込み件数は500件で、福岡で行われた2004年度秋季大会の511件に次いで多くの講演申込みがあった。その内訳はスペシャルセッションを含めた口頭発表が314件、ポスター発表が186件であった。

会期中およびその前日には、個別のテーマによる研究会が6件開かれた。

最後に、今大会事務局として大会準備・運営にご尽力頂いた札幌管区気象台、北海道大学低温科学研究所、北海道大学大学院地球環境科学研究院、北海道大学大学院理学研究院、北海道大学大学院工学研究科、(財)日本気象協会北海道支社、札幌総合情報センター株式会社をはじめとする北海道支部の皆様へ深く感謝の意を表します。

2007年10月 講演企画委員会